

# 倉青協、太宰氏にバトン

## 会員の交流深耕に注力

倉庫業青年経営者協議会は十二日、総会と全体会を開き、新会長に白石倉庫（宮城県）の太宰栄一社長が就任した。一期二年を務めた曾根和光前会長（ダイワコーポレーション社長）の後任として、会員事業者の交流を深める活動を推進。今年度から広報委員会を立ち上げ、外部団体との意見交換や発信力を高める。

太宰新会長は総会のあ

いさつで、四年前の東日本大震災時に自社が被災し、打診されていた会長職を引き受けられなかったエピソードを披露。曾根前会長に謝意を述べるとともに、「年十回以上催しを聞くなど倉青協の活動が活発化している。流れを引き継ぎたい」と意気込みを語った。

### 広報委員会で 発信力を強化

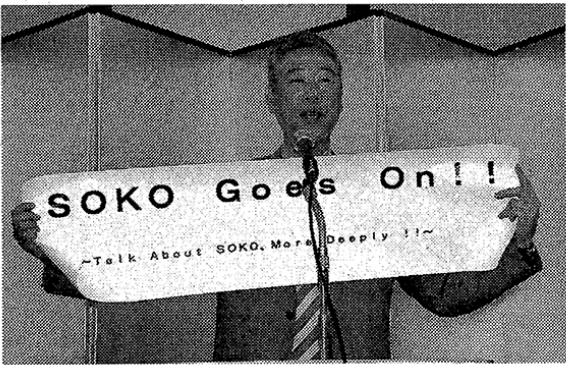
倉青協は新会長

の下「Soko goes on!」Take Abo ut SOKO, More Deeply」をスローガンに活動を展開。会員事業者

がより意見交換を行える環境を整え、「参加者が毎回何かを持ち帰ることができる」（太宰会長）取り組みを目指す。

今年度はテーマ別に議論・意見交換を行う分科会制度を復活。従業員参加型の企業交流会や、地

方ブロック大会の開催方法改善にも取り組む。また新たに広報委員会を発足。トラック協会、日本倉庫協会などとの意見交換を通じ、世の中への発信力も高める。太宰会長は「倉庫業界にはまだまだビジネスチャンスが眠っている」と述べ、活発な活動で倉庫事業者が胸を張って商売を続けられる未来を切り開きたいとした。（小林 孝博）



新スローガンを掲げ会員活動の充実化に意欲を示す太宰新会長